

令和7年度 調布市立北ノ台小学校 学校経営計画（校長 野口 直也）

学校の教育目標		
○思いやりのある子ども ◎よく考える子ども ○明るく元気な子ども		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切に作る学校】 （１）児童にとって 「よろこびのある毎日が送れる学校」 ・友達と関わることのできるよろこび ・学んで分かるよろこび ・心を解放して体を動かすよろこび ・自分の存在が認められるよろこび ・自分の成長が実感できるよろこび ・自分の将来に希望がもてるよろこび （２）保護者、地域にとって 「安心して任せられるみんなの学校」 ・開かれた学校（教育活動の積極的な発信） ・安心できる学校（チームで迅速、誠実な対応） ・ふるさと北ノ台（協働、連携） （学校 HP、メールの活用、来校機会確保） （共通理解を図るためにコミュニケーションを密に） （コミュニティ・スクール、地域学校協働本部） （３）教職員にとって 「自己実現できる職場」 ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場 （何でも相談、コミュニケーションを密に） （ボトムアップ、当事者意識をもつ、仕事にやりがい） （学び、成長する機会の確保 職に誇りと責任を）		
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	○児童は素直で明るい。自己肯定感が低い児童も一定数いる。児童が自分のよさに気づき、自分のよさを生かすことができるよう環境を整え、児童が自ら考え、主体的に活動する学校にしていことが課題である。 ○個別の支援を必要とする児童が年々増加している。また、不登校及び不登校傾向のある児童が多い。ステップルームの活用、校内委員会、不登校対策委員会の定期的な開催や、SC、SSW、関係機関と連携した組織的な対応を積極的に進めている。 ○「主体的、対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」への対応が十分とは言えない。校内研究や OJT を通して、教員の授業力を向上させることが課題である。	
中期的な経営目標		
① ・教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実 ・命の教育の推進、特別支援教育の充実 ・いじめ・偏見・差別を生み出さない人権教育の推進 ② ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ ・自己指導能力の育成と挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着 ・安全及び心身の健康の保持増進に関する指導の充実 ・主体的に課題解決に取り組む授業の実践 ④ ・コミュニティ・スクールとして、地域学校協働本部を中心とした地域・保護者の教育力の活用 ⑤ ・一人一台モバイル端末の効果的な活用、プログラミング教育の推進 人・組 ・授業力の向上 ・校務分掌の活性化 ・服務規律の徹底 ・ライフ・ワークバランスの推進		
調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ①主体的に考え、議論する道徳授業の実践をするとともに、いじめについて考える授業を全学級で各学期 1 回、年間で 3 回行う。 ②不登校児童の解消や新たな不登校を生まないために心の居場所づくりに努める。(児童の声にしっかり耳を傾ける。迅速で誠実な保護者対応をする。) ③学級活動やたてわり班活動等の特別活動を通して、児童に豊かなコミュニケーション力を身に付けさせる。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「いじめをしないで仲良く」80%以上、保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80%以上、職員評価「いじめ授業」80%以上 ②児童アンケート「先生に相談できる」80%以上、保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80%以上、職員評価「不登校児童の居場所づくり」80%以上 ③児童アンケート「学校は楽しい」80%以上、保護者アンケート「お子さんは楽しく」80%以上、職員評価「コミュニケーション力」80%以上	(1) 取組目標（具体的方策） ①週ごとの指導計画を作成、提出し、計画的に指導を行うとともに、児童に、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。 ②年間9回の校内研究を通して、児童が主体的に学習に取り組めるよう、「主体的・対話的で深い学び」となるよう、授業の工夫・改善を行う。 ③「個別最適な学びと、協働的な学び」を進めるために一人1台モバイル端末の活用を含めて適宜 ICT を学習に取り入れる。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「授業の内容が分かる」80%以上、保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」80%以上、職員評価「計画的な指導」80%以上、 ②児童アンケート「すすんで学習している」80%以上、職員評価「授業の工夫」80%以上、「児童の実態に応じた工夫・改善」80%以上 ③職員評価「ICT 機器を授業に活用」80%以上、職員評価「学習の中で、児童に一人1台モバイル端末を積極的に活用」80%以上	(1) 取組目標（具体的方策） ①「自己指導能力」を身に付けさせるために、児童に自己選択、自己決定させる場を設ける。「みんなのきまり」は全教職員で共通理解を図り、挨拶や正しい言葉遣い等の習慣を身に付けさせる。 ②食育を充実させるとともに、スポーツフェスティバル、長なわ跳び・単なわ跳び週間等を行うことで、児童の健康や運動への興味関心を高め、楽しさや喜びを味わえるようにする。 ③体育の授業で振り返りを重視し、児童が主体的に粘り強く課題解決に取り組めるようにする。全員外遊びを実施することで運動の日常化を図る。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「すすんで挨拶」80%以上、保護者アンケート「すすんで挨拶」80%以上、職員評価「自己指導能力」80%以上、「学校のきまり」80%以上 ②保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」80 点以上、職員評価「食育の充実」80%以上、体力テスト T スコア 50 以上 ③児童アンケート「すすんで運動」80%以上、「職員評価「運動することの楽しさ」80%以上、「休み時間の外遊び」80%以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 保護者・地域との連携	⑤ ICT 機器を活用した授業改善	
(1) 取組目標（具体的方策） ① CS として、地域学校協働本部を中心にしながら地域の教育力を活用する。 ② HP を年間 100 回以上更新する。学校・学級便りを定期的に発行する。 (2) 成果目標（数値目標） ① 保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90%以上 ② 職員評価「学校の様子を定期的に保護者に伝える」90%以上	(1) 取組目標（具体的方策） ① ICT の活用場面を増やすことで、日常的な授業力の向上を目指す。 ②「個別最適な学びと協働的な学び」を促進するため一人1台モバイル端末を活用する。 (2) 成果目標（数値目標） ① 職員評価「ICT 機器を効果的に活用」80%以上 ② 職員評価「一人1台モバイル端末の積極的な活用」80%以上	
人材育成・組織運営		
○授業力の向上 ・計画的に OJT（北翔塾）を実施することで、切磋琢磨し合う環境をつくる。 ・様々な講師を招聘し、教職員の授業力や指導力を向上させる。 ○校務分掌等の活性化 ・校務分掌組織を見直し、組織の運営を合理化する。 ・ボトムアップを実感することで、教職員のモチベーションと当事者意識を向上させる。 ○服務規律の徹底 ・定期の研修と服務ニュースレター等を活用した校長講話により教育公務員としての自覚と人権意識を高める。職場内で相談しやすい雰囲気を作る。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・家族や介護の状況に応じた休暇制度の利用を奨励する。 ・Teams をはじめ、ICT を効果的に活用することで業務を効率化する。 ・副校長補佐、学校補助員、SSS 等を最大限活用することで、週当たりの在校時間を 60 時間以内に作る。		

